

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	180人	社会	180人	数学	180人
	理科	180人	英語	180人		

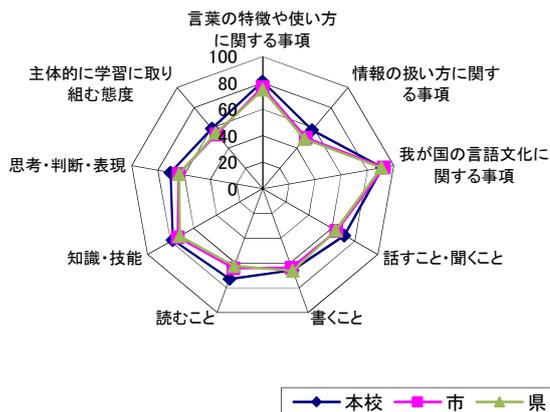
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	57.9	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	91.4	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	71.0	64.2	63.4
	書くこと	65.8	63.7	66.4
	読むこと	72.9	64.2	62.5
観点	知識・技能	78.1	73.7	71.9
	思考・判断・表現	70.4	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	59.3	53.8	54.8



## ★指導の工夫と改善

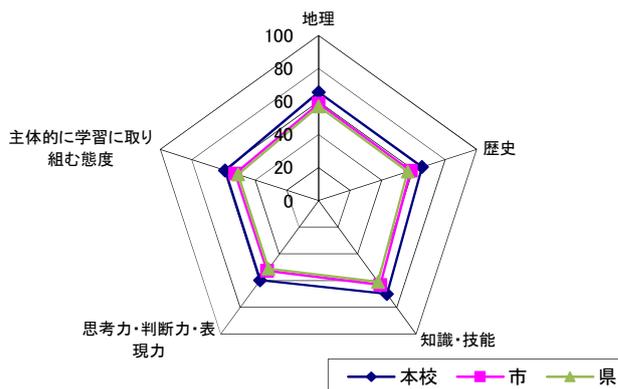
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○平均正答率は81.1%であり、市や県の正答率を上回っている。特に故事成語の使い方についての設問では正答率が92.4%と、県の正答率より高かった。 ●小学校で学習した漢字(「半径」)の漢字の書きの正答率は62.4%と、県の正答率を下回った。	・一部の漢字の書き取りにおいては、読みに比べ誤答が目立つ。本校では、新出漢字を中心に定期的なテストを行っているため、過去に習得した漢字も出題内容に加え、漢字の復習にも力を入れていく。また、日常的に漢字を正しく使うことを身につけさせていく。
情報の扱い方に関する事項	○平均正答率は57.9%であり、市や県の正答率を上回っている。情報と情報の関連を理解し、自分の考えが明確になるように構成を考え記述する設問では県の正答率より特に高くなっている。 ●上記の設問では無回答率が16.7%で、他の設問と比べると高い。	・「書くこと」との関連もあるが、自分の考えを整理したり、構成を考えて述べたりすることに自信を持てるよう、重点的に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は91.4%であり、県の正答率よりやや高かった。 ●市の平均正答率との比較するとやや低かった。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問であったが、基礎的な力は身に付いているといえる。今後もこうした基礎的な力を大切にしながら、古文に読み慣れ、親しみを持てるような指導をしていく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は71.0%であり、市や県の正答率を7ポイントほど上回っている。特にスピーチすることを想定した設問では県の正答率を大きく上回っている。 ●個別の設問を見ると、話し合いを聞いてその話し方の特徴を捉える設問のみ県の正答率をやや下回った。	・誰かに対して話をする際、自分の考えが明確になるように意識し、工夫を加える力が身に付くよう指導していく。
書くこと	○字数や段落構成など条件に合わせて文章を書くということは70%ほどの生徒ができていた。 ●平均正答率は65.8%であり、県の平均はやや下回っている。無解答が16.7%あり、他の設問と比較すると割合が高くなっている。また、その割合も県平均より1.7ポイント高かった。	・無解答の生徒が多かったのは、時間が足りなかった、諦めてしまった等の可能性が考えられる。普段から「考えを短時間で整理する」「考えを言語化する」という学習活動を取り入れ、書くことに慣れるような指導をしていく。
読むこと	○平均正答率は72.9%であり、市や県の平均を9ポイントほど上回っている。特に記述をもとに考える設問では県や市の平均より10ポイント以上高かった。 ●説明的文章の構成の特徴を捉える設問は、県の平均を上回っているが51.4%と他の設問と比較すると低めになっている。	・全体の内容を理解するだけでなく、文章の構成を俯瞰的に捉えたり、どんな言葉で書かれているかという細かい点に注目したりといった、様々な視点をもって読むことを指導していく。

# 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	65.5	58.7	57.0
	歴史	65.5	58.3	56.4
観点	知識・技能	70.0	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	59.6	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	59.0	52.6	50.8



## ★指導の工夫と改善

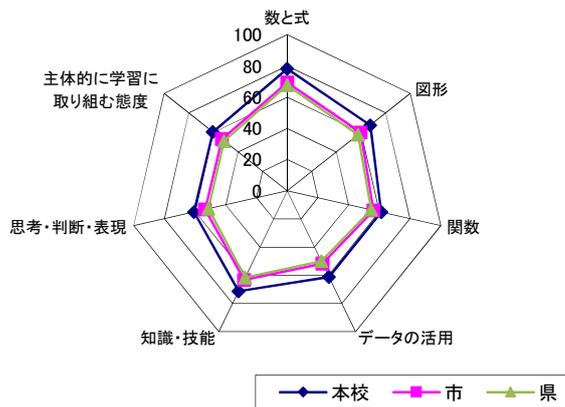
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○「世界の姿」の分野では、平均正答率が7割を超え、良好であった。</p> <p>○「日本の姿」の中の緯度・経度についての模式図の読み取り問題は、市及び県平均よりも5ポイント上回っており、高い理解度がうかがえる。</p> <p>○「世界各地の人々と生活と環境」の分野では、平均正答率が81.7%と良好であった。</p> <p>●「世界の諸地域」は、市及び県平均正答率より高いものの、平均正答率は54.3%と理解度が低い。特にヨーロッパ州の農業について資料を基に考察する問題は平均生徒率が3割以下であった。</p>	<p>・今後も授業の中で地図や資料を読み取りを多く取り入れ、技能を高めていく。</p> <p>・「世界の諸地域」については、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取ったりそこから分かることを考えたりする場面を増やしていく。また、意見交換等を通してさまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。</p>
歴史	<p>○平均正答率が、市平均及び県平均よりも上回っている。</p> <p>○「縄文時代～古墳時代」「飛鳥時代～平安時代」の分野では、平均正答率が7割を超え、良好であった。中でも古代文明の特色の問題は、市及び県平均よりも+5ポイントであり、高い理解度がうかがえる。</p> <p>●「中世の日本」は、市及び県平均正答率より高いものの、平均正答率は52.7%と理解度が低い。また、武士の成長についての考察の問題は、平均正答率が3割以下であり、考察したことを表現することを苦手としている生徒が多い。</p>	<p>・今後も授業の中で資料や歴史地図、年表の読み取りを多く取り入れ、知識・技能を高めていく。</p> <p>・歴史分野でも、一つの資料からだけではなく複数の資料を関連付けて読み取ったり意見交換をしたりして、さまざまな考え方や視点があることに気付かせていく。</p> <p>・複数の資料をもとに考察したことを表現する場面を増やしていく。</p>

# 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	78.1	69.3	67.7
	図形	67.4	59.8	57.7
	関数	61.2	56.2	54.7
	データの活用	61.2	51.6	49.9
観点	知識・技能	71.3	63.2	61.5
	思考・判断・表現	60.7	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	60.4	53.0	51.2



## ★指導の工夫と改善

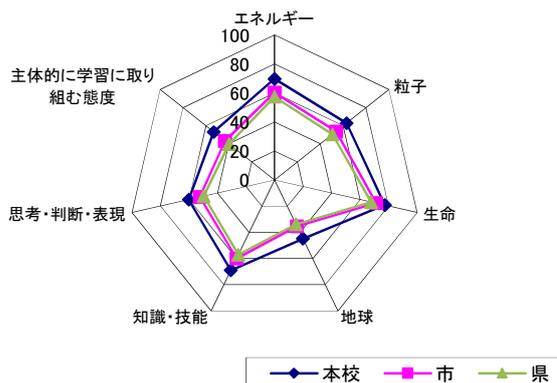
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は78.1%で、市平均より8.8ポイント、県平均より10.4ポイント上回っている。特に、素因数分解や、数量を不等式で表すことなどは、県平均よりも10ポイント以上高くなっている。 ●与えられた文章題から適切な1次方程式を立式することでは、県平均より12.2ポイント高いが、無回答率が11%となっており課題がみられる。	・正の数・負の数、文字式の計算、1次方程式の基本的な知識や技能の学習内容に関しては定着している。減法や負の数を含む問題を苦手としている生徒もいる。1年生から小テスト形式の練習をさせるなどの活動を取り入れ、基礎基本の定着を図っていく。 ・方程式の利用の問題が苦手な生徒がいて、数量の関係を見出すことや文字を使って表すことなど、書くために必要なことを理解させる。
図形	○正答率は67.4%で、市平均より7.6ポイント、県平均より9.7ポイント上回っている。特に、図形の面積や体積、表面積についての理解などでは、県平均よりも10ポイント以上高くなっている。 ●角の二等分線の作図は、県平均より3.9ポイント高いが、38.8%と低い結果となった。	・平面図形、空間図形の基礎的・基本的な知識や技能の学習内容については定着している。しかし、説明したり、折り目を作図したりするなど、利用して解くことが苦手な生徒が多い。問題を解くために必要な性質や公式など既習事項を確認しながら演習していきたい。
関数	○正答率は61.2%で、市平均より5ポイント、県平均より6.5ポイント上回っている。特に、比例のグラフを書くところでは、県平均より17.3ポイント高くなっている。 ●関数についての理解を図る問題では、県正答率を2.1ポイント上回っているが、正答率は42.6%と低い結果だった。	・比例・反比例の関係をもとに、xの値からyの値を求めることができるが、関数についての理解がやや低い。身近な問題を取り上げ、ともなって変わる2つの数量の変化を追いながら、丁寧に理解させていきたい。
データの活用	○正答率は61.2%で、市平均より9.6ポイント、県平均より11.3ポイント上回っている。特に、度数分布表や階級の度数の理解などでは、県平均を10ポイント以上高くなっている。 ●2つの度数折れ線から傾向を読み取り説明する問題では、県平均を12.3ポイント高くなっているが、無回答率が23.4%となっている。	・資料の整理の単元では、度数分布表、相対度数、累積度数、度数折れ線などの基礎内容が身につけていない生徒がいる。基礎的な問題を多く解き、再確認させたい。 ・データの読み取りや傾向を数学的に説明することは難しく、苦手としている生徒は多い。数値の変化や規則性など丁寧に解説し、問題を多く解くことで理解を深めさせたい。

# 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	69.8	60.3	57.4
	粒子	62.9	53.8	50.7
	生命	77.3	71.2	67.8
	地球	44.7	35.3	33.8
観点	知識・技能	68.9	59.9	57.0
	思考・判断・表現	60.2	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	53.1	43.3	39.8



## ★指導の工夫と改善

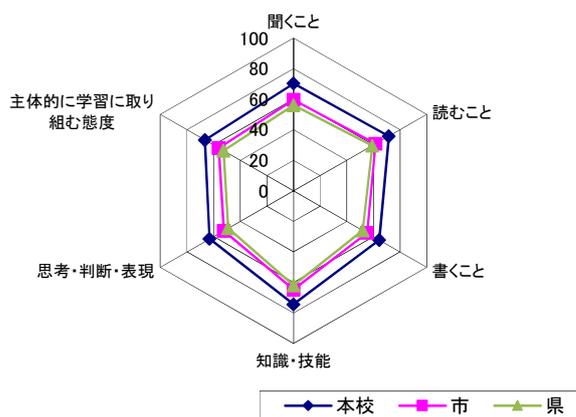
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に、音の性質の問題の正答率が2問とも9割弱の正解率だった。モノコードや音さの音の波形をオシロスコープで表示させながら実験させた成果であると考えられる。</p> <p>●「おもりがばねを引く力」の問題の正答率が、市や県を上回っているものの、5割弱と低かった。</p>	<p>・「力の性質」は目に見えない概念である。それを見る形にして考えやすくするために「ばね」が有効であることをおさえさせたい。そして、「力」は「ばねののび」と比例の関係にあることを、実験結果を基に理解させたい。更に、重力がおもりを引き、おもりがばねを引く関係を、矢印で表せるかどうかも重要になる。そのような問題練習も通して、より良い理解につなげたい。</p>
粒子	<p>○平均正答率は市や県を大きく上回っている。特に、水とエタノールの混合物の問題の正答率が8割強で、市の平均よりも15.0ポイント高かった。実験により、物質の沸点の違いと発生する気体の関係を理解することができていたと考えられる。</p> <p>●溶解度を活用し、尿素の結晶が出てきた理由を考える問題の正答率が、市や県を上回っているものの、3割強と低かった。</p>	<p>・溶解度や溶解度曲線については、塩化ナトリウム・硝酸カリウム・ミョウバン・砂糖で教えることになっている。その他の物質に基本知識を汎用させて考えることができていると考えられる。まずは、基本となる物質の場合について、文章で説明できるようにするための練習を充実させたい。その上で、教科書にはない物質の場合も同様に考えられることをおさえさせたい。</p>
生命	<p>○平均正答率は市や県を上回っている。双子葉類と単子葉類の分類の問題の正答率が7割強ではあったものの、市の平均よりも15.2ポイント高かった。</p> <p>●イヌビワのように、たくさんの花が集まって1つの花をつくっているように見える植物を指摘する問題の正答率が64.6%で、市の平均を3.9ポイント下回った。</p>	<p>・基本知識の定着は良好だったものの、あまり馴染みのない植物になると、それらの知識を汎用させて考えられない生徒が多かった。日頃から様々な植物に興味関心を抱き、疑問を持ちながら観察する習慣を養いたい。そのために、授業の中でもできるだけ実物を見せたり、教科書にはない植物を写真で紹介したりしながら、疑問を持って観察することを習慣化させ、思考力の向上を図りたい。</p>
地球	<p>○平均正答率は市や県を上回っている。火山灰の鉱物の割合から火山の特徴を推定する問題の正答率が5割強ではあったものの、市の平均よりも11.3ポイント高かった。</p> <p>●柱状図を見て思考する問題の正答率が8.6ポイントとかなり低く、市の平均とほぼ同じだった。</p>	<p>・地層の広がりや、重なりを理解して問題を解くことに課題があると考えられる。また、学習する時期が年度末で、十分に問題練習させる時間の確保が難しい面も課題だと考えられる。映像や写真を効果的に用いながら、地下の地層の広がりをイメージさせたり、協働で答えを導き出させる課題を設定したりして、より良い理解につなげたい。</p>

# 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	70.3	59.6	56.1
	読むこと	71.6	61.6	59.1
	書くこと	64.4	55.2	51.9
観点	知識・技能	74.3	64.7	61.9
	思考・判断・表現	62.9	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.5	56.1	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○正答率が70.4%と、市の平均を10.6ポイント上回っている。内容項目を見てみると、「内容理解」では18.6ポイント、「対話文の応答」では15.7ポイント、「さまざまな英文の聞き取り」では、21.4ポイントと、市の平均を上回っている。</p> <p>●個別の設問については、「さまざまな英文の聞き取り」問題の正答率が41.6%になっている。</p>	<p>・今後も、授業ではALTとの授業を活用しながら、授業で会話する機会を増やすなどして、相手の意見を英語で聞く活動を積極的に取り入れていく。また、教科書の内容に関連したリスニング問題に取り組む時間を確保し、音読の練習にも力を入れていく。さらに、定着度の確認のために単元ごとにリスニングテストを実施していく。</p>
読むこと	<p>○正答率が71.6%と、市の平均を10ポイント上回っている。内容項目を見てみると、「さまざまな英文の読み取り」では8.9ポイント、「長文の読み取り」では、17ポイント上回っている。</p> <p>●個別の設問については、「読み取った内容をふまえて、対話文を完成させることができる」問題の正答率が49.3%であった。</p>	<p>・今後も、教科書の読み物教材を使用し、発問内容を工夫していき、文章の読み取る力を伸ばしていく。教科書以外の英文についても授業で触れるなどして、文章を読むことに対して慣れ親しませていく。</p> <p>・メールの内容を把握する問題について苦手意識を持つ生徒がいるので、実際に自分でメールを書く活動を授業に取り入れながら、内容の読み取りにも慣れさせていく。</p>
書くこと	<p>○正答率が64.4%と、市の平均を9.2ポイント上回っている。内容項目を見てみると、「単語の並べかえによる英作文」では6.3ポイント、「情報に基づいて書く英作文」では10.2ポイント上回っている。</p> <p>●個別の設問については、「対話の流れに合った英文を書くことができる」問題の正答率が35%であった。</p>	<p>・「書くこと」が3区分中最もポイントが低い。授業で書く練習をするために、練習問題や単語テストを通して、単語や英文を正しく書くことができるようにしていく。</p> <p>・「場面に応じて書く英作文」の問題に対し、苦手意識を持つ生徒が多い。日常生活でよく出てくる場面を設定し、対話で必要な表現を考えさせる機会を授業で増やしていく。</p>

## 宇都宮市立泉が丘中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」、「家でテストで間違えた問題について勉強している」、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」、「疑問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」の項目では、肯定割合が市や県の平均より高い。学習に関して、自主的に取り組もうとする意欲や態度があると言える。今後も、この前向きな姿勢を継続していけるように生徒たちにアドバイスをしていく。

○「学習して身についたことは、将来の仕事や生活の中に役立つと思う」、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の項目では、肯定割合が市や県の平均より高い。学習に対して、意欲が乏しい生徒などに、良い影響を与えられるよう、授業においてお互いに学び合う場を積極的に設けていく。

○「学校の決まりを守っている」、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の項目では、肯定割合が市や県の平均とほぼ同じであり、学校生活において、基本的な生活習慣が概ね身についていることがわかる。

○「物事を最後までやりとげて、うれしかったことがある」では、肯定割合が市や県に比べて高く、しっかりと自分を持っていることがわかる。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」、「自分が持っている能力を十分に発揮したい」でも肯定割合が市や県より高く、よりよくなろうと自分をより高めていこうとする向上心を持っていることがわかる。

●「家で学校の授業の予習・復習をしている」の項目は、肯定割合が市や県よりほぼ同じであるので、家庭学習での予習・復習の大切さを指導し、状況によって自主学習ノートなどを利用して復習させる。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業や単元の振り返り	毎時間の授業の最後や単元の最後などに「学習目標」に対する振り返りを行う時間を設定し、その授業や単元を理解しているかどうかを確認する。	「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の項目に対して、肯定的回答が76.1%と昨年度の81.9%を大きく下回っている。市においても同様の傾向がみられるが、本校の重点的な取組であるので、その改善策をしっかりと考えていきたい。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問では、肯定割合が、市の平均よりも3.9ポイント、県の平均よりも5.6ポイント下回る結果となった。今後、改善していく課題といえる。	自分の考えを進んで発信していく。	・新型コロナウイルスの蔓延により、授業の中で他の生徒との話し合いが制限されていることもあるが、タブレットの付箋機能などを有効利用し、意見交換の機能を充実させていくようにする。